

学校だよりNo.12

# 校長室の窓から

平成30年12月

## < 校訓 >

いのちを大切にしよう  
ましまりを守ろう  
進んでことにあたらう  
相手の立場に立って考えよう



## 年の終わりに

イギリスの探検家、ラポックという人が「他人と比べて、他人が自分より優れていたとしても、それは決して恥ではない。しかし、去年の自分よりも今年の自分が優れていないというのであれば、それは立派な恥である。」という言葉を残しています。

**"It is not a shame if others are superior to you but it is if you this year is inferior to you last year."**

「知識や能力、技術、また、人間性においてすばらしい人だ、すてきな人だと思える人はたくさんいるでしょう、そして、そうした人たちと自分を比較して、その違いに自信を失ったり、うらやましがったりするなど、時々あると思います。しかし、他人が自分より優れていることは別に恥ずかしいことではない、また、うらやましがることでもない。大切なことは、たとえ小さな一歩でもいいから、自分なりに努力を重ねて一年一年着実に向上し続けていくことなんだ。」ということを言われているのだと思います。

## ～平成最後のお正月～

早いもので、今年も残すところあとわずかとなりました。年末のあわただしい中ですが、時間を見つけて、この一年の自分を振り返る時間をもってほしいと思います。もし、今年、「我慢や努力がたりなかったな・・・。」など思うことがあればしっかりと反省し次に生かしてほしいと思います。平成31年という新しい年の目標をしっかりと立て、今年以上に実りある一年になるように、先生も生徒もお互いに頑張っていきたいと思います。

## 生徒会執行部決定

12月9日に生徒会役員選挙が行われ、生徒会執行部が決定しました。立ち会い演説会では、それぞれ自分の思いや考えをしっかりと述べていました。やる気を全面に出して頑張ってください。新執行部の活躍と全校生が力を合わせて活動する生徒会活動を期待しています。

- 会長：都出 柊汰 … 去年経験したことをいかして、共助ができる学校になるようがんばります。
- 副会長：金森 優 … 生徒会を支えていき、はじめのある学校をつくっていきます。
- 書記：國宗 亜水 … 生徒会新聞などで、みなさんが見やすい字を書き、前向きに全力で頑張ります。
- 総務委員長：福原 通仁 … 3分前の音楽で全員が着席できるように授業環境を整えます。
- 風紀委員長：長町 依咲 … 明るい性格を生かして、あいさつがあふれる学校にします。
- 文化委員長：岡田 和花 … 合唱コンクールや文化発表会をみんなが楽しめるように頑張ります。
- 体育委員長：梅景 歩琉 … 全校生徒が、ケガなく活発に体育の授業を受ける学校を目指します。
- 保健委員長：松島 優果 … 保健委員長として、みなさんが健康に過ごせるような学校をつくっていきます。
- 美化委員長：坂下 颯 … 学校の美化に励むために、清掃道具の手入れに力を入れたいと思います。
- 図書委員長：三浦 美鈴 … たくさんの本を紹介し、一人でも多くの人に図書室を利用していただけるようにします。
- 放送委員長：小西 彩花 … 昼食時にみんなが楽しいと思える音楽を流します。



## 税の作文

尼崎市教育委員会教育長賞 尾藤 麻衣  
尼崎納税貯蓄組合連合会会長賞 亀田 菜緒

## 兵庫県統計グラフコンテスト

入選 中井 絢斗

## 兵庫県中学校総合文化祭

書写部門 特選 伊藤 みやび  
入選 徳千代 和奏  
加藤 藍子

## トライやる・ウィーク ～ 11月12日(月)～16(金)～ お世話になりました

本年度も武庫東中学校『トライやる・ウィーク』は、67箇所の事業所でお世話になりました。事業所のみならず、毎年、育友会や育友会OBの方にも大変お世話になっています。「引き受けてくれる事業所が少なく困っている。」という声も聞かれる中、本年度も多くの事業所にご協力いただけていることに、改めて感謝いたします。ご迷惑をおかけしたことも多々あると思いますが、貴重な体験をさせていただき、生徒はたくさんのお話を学んだと思います。自分の将来の生き方について考えるよい機会となり、生徒たちの今後の人生において大いに役立つものと思っています。

『トライやる・ウィーク』は、平成7年に起きた阪神淡路大震災からの教訓、そして、平成9年の神戸市須磨区児童連続殺傷事件を背景として設置された「心の教育緊急会議」において、様々な実体験を通して子ども一人ひとりが自分なりの生き方を見つけられるよう支援していくことが重要であると報告されたことを受けて、その取り組みの一環として平成10年度に誕生しました。

『トライやる』の名称は『挑戦＝トライ』と『学校、家庭、地域社会の3者＝トライアングル』の意味も込められています。中学生が様々な活動や体験を通して、豊かな感性や想像性などを自ら高めたり、自分なりの生き方を見つけたりすることができるように学校・地域・家庭が一緒になって支援していこうとするもので、県内公立中学校、特別支援学校、中等教育学校の2年生全員が実施しています。

ところでみなさん、『トライやる・ウィーク』が当たり前のように毎年実施できていることに慣れてしまっていないでしょうか？実施は11月ですが2年生担当の先生方は1学期から準備をしています。夏休み期間を利用して事業所に受け入れのお願いや挨拶にうかがっています。先輩たちが頑張ってきたということはもちろんですが、毎年先生方が丁寧に準備してくれていることも、多くの事業所が協力を続けてくれている要因だと思います。

事業所の方のことを考えてみましょう。中学生を受け入れるということは大変なことです。実際、仕事している時間帯に中学生が面倒をみてもらうのです。担当の人の仕事の手を止めることにもなります。中学生にも小さな子ども達にもケガをさせてはけません。お客様に失礼があってはいけない、『トライやる・ウィーク』期間中とは言え、不快な気持ちにさせるわけにはいかない等、色々とも使われることと思います。

「楽しかった」という人もいます。それ以上に「働くということは、本当に大変だ。」「お金を稼ぐということは本当に大変だ、お父さんやお母さんは毎日頑張ってくれているんだな。」など、改めて感じた人もいます。楽しい体験も『トライやる・ウィーク』です。「しんどかったな、よく怒られたな。」という体験も『トライやる・ウィーク』です。働くことの厳しさを知ること『トライやる・ウィーク』の重要なねらいの1つだと私は思っています。少しくらいしんどくても、「休まず明日も頑張ろう。」「少しくらい失敗しても、「すいません。次、頑張ります。」と言って前に進んでいく、そんな強い気持ちも持ってほしいと思います。

たくさんの方が中学生のために動いてくれています。1年生は来年体験することになりますが、まずは、5日間(4日間)頑張り抜くタフな気持ちも養ってほしいと思います。2年生はお疲れさまでした。そして、事業所、地域、保護者のみなさま、本当にありがとうございました。

